

ループリックによるピア評価を導入した「養護概説」における試行的実践についての一考察

著者	三森 寧子
雑誌名	聖路加国際大学紀要
巻	5
ページ	57-62
発行年	2019-03-20
URL	http://doi.org/10.34414/00013650



短報

ルーブリックによるピア評価を導入した「養護概説」における
試行的実践についての一考察三森 寧子¹⁾Discussion of Trial Practice of Peer Assessment by Rubrics:
“Theory and Practice of *Yogo* Teachers”Yasuko MITSUMORI¹⁾

〔Abstract〕

For the “Theory and Practice of *Yogo* teachers” improvement class of the *Yogo* teachers training course, we examine the use of a method that includes active learning and assessment of rubrics. This report describes this educational practice and its learning effects for students. Results show that almost all students assigned the highest score to rubrics. They must study someone to assess a person in advance. However, the student response to peer assessment by rubrics is satisfactory. The beneficial effects are advancement of learning and raising self-efficacy. Furthermore, by peer assessment, students developed through attitudes of learning about each other. Considering the circumstances, using peer assessment by rubrics might provide promising opportunities for students who are struggling to do active learning. We will continue this educational practice. We hope to establish an active learning method.

〔Key words〕 Active learning, Rubrics, Learning effect, Theory and practice of *Yogo* teachers

〔要旨〕

養護教諭養成課程における「養護概説」の授業改善の試みとして、アクティブラーニングの一環であるルーブリックを用いた評価の実際と、ルーブリックによる学生同士のピア評価の学習効果についての報告である。ルーブリックによる評価の実際は、5段階評価の5をつける学生が多く、あらかじめ他者を評価することについて学ぶ必要性が示唆された。ルーブリックを用いたピア評価に対する学生の反応は良好であり、〔今後の学習活動の発展〕と〔自己効力感の高まり〕という効果が得られていた。ピア評価についても、【視野が広がる】、【お互いを高め合える】など、1人だけではなく他者と学び合う姿勢が養われていた。以上より、ルーブリックを用いたピア評価を導入することは、学習者において主体的に学習に取り組むきっかけになる可能性が示された。今後も継続して取り組み、アクティブラーニング型授業の実践の確立に向けて検討していきたい。

〔キーワードズ〕 アクティブラーニング、ルーブリック、学習効果、養護概説

I. はじめに

文部科学省によるアクティブ・ラーニングの政策化¹⁾

から、高等教育においては、「学生の主体的な学び」というテーマが大学教育において重要課題とされ、アクティブラーニングへの転換が求められている。アクティブラー

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

ニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である」²⁾と定義されている。2014年の中央教育審議会諮問³⁾では、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を重要視している。このような教育方法が注目されるようになった背景には、近年の学生の学習に対する意欲・主体性の減退ならびに学習者の自信がないことが特徴として挙げられており、現代の学生には目標の優先順位と評価基準を明示することがポイントとされている⁴⁾。また、学生の立場からは、講義中心の授業では、授業に参画しているという責任と実感も希薄になり、学生に学習意欲の促進と主体的な学びへの変容に向けてアクティブラーニングへの期待が大きいと見える。

II. 「養護概説」の取り組み

聖路加国際大学（以下、本学）の養護教諭養成課程は一学年約20人であり、少人数クラスの授業である。専門科目である「学校保健」、「養護概説」、「学校における健康支援活動」の3科目の中で、「養護概説」は養護教諭の教育実践の全般を概説し、養護教諭教育の学問的な体系の中核として位置づく重要な科目である⁵⁾。「養護概説」について調査をした著者らは、「養護概説」は学問として理論を学ぶべき科目であり、養護教諭としての実践を学ぶためにはさらに演習科目があることが望ましいと指摘している⁶⁾。しかし、養護教諭養成機関の学問的基盤の多様さにより、その内容や方法は各養成機関の裁量に任せられている。したがって、本学のような看護系大学では、過密な看護学カリキュラムのなかで、2科目構成で教授することは難しく、一科目において養護教諭の理論と実践を学ばなくてはならない。つまり、「養護概説」は、2単位30時間の枠の中で、講義と演習を組み合わせた学習方法にて、理論と実践を学修することを目指している。しかし、看護学の課題に追われる多忙な学生は、演習に向けた自己学習の時間の確保が難しく、いかに主体的に興味関心をもって、効果的な学習が行えるかは、筆者が常に抱き続けている課題である。そのため、毎年、学生の数や特徴も踏まえて効果的な学習方法、学習内容を試行錯誤の中で検討している。

そのような中で、筆者は外部の研修で、アクティブラーニングの手法に出会い、「養護概説」に導入したいと考え

た。研修のほかに、実際にアクティブラーニングを多様な手法で実践している大学へ授業見学も行った。そこで、授業設計の基本として評価方法が重要であり、深い学びにつながる手法を選択すること、学習成果の可視化という点でルーブリックが有効であることを学んだ。

III. ルーブリックについて

ルーブリックとは「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」である⁷⁾。学習成果を得点化するためのフォームであり、評価項目について段階的な判定基準が具体的に記されている。ある課題をいくつかの構成要素に分け、その課題ごとに評価基準を満たすレベルについて詳細に説明したもので、様々な課題の評価に使うことができる。ルーブリックは4つの基本的な要素でできており、「課題」、「評価尺度」、「評価観点」、「評価基準」である。「評価尺度」は達成レベルや成績評価点、「評価観点」は課題が求める具体的なスキルや知識、「評価基準」は具体的なフィードバック内容を指す。

ルーブリックを使うことによる利点は、①タイミングの良いフィードバックができること、②評価基準の見える化により学生に詳細でわかりやすいフィードバックができること、③批評的思考力のトレーニングになること、④他者とのコミュニケーションの活性化につながること、⑤学生の成長と改善点を把握でき、教員の教育技法の向上となること、⑥評価基準を学生と教員が共通理解し、平等な学習環境作りができることとされている⁷⁾。

以上より、「養護概説」における演習をより学生自身が主体的に進めるために、評価方法としてのルーブリックを用いること、さらにピア評価により、学生一人一人の主体的な参加と学習意欲の向上につなげることをねらいとして授業内容を考えた。本報告は今年度初めての試みとして行ったルーブリックによる評価について、その実際と学生の反応を整理し、今後の授業改善につなげるために考察するものとする。

IV. 方法

1. ルーブリックの作成

前述した研修において作成したルーブリックとダネルらのテキスト⁷⁾を参考に、養護概説の授業内容に合わせて作成した。評価する対象は、「養護の概念」、「養護教諭の職務」、「保健室の機能」、「現代の子どもの発達・健康課題」の4課題に関するプレゼンテーション、そのためのグループワーク、一人ひとりが作成した保健だよりとした。科目担当の教員2名の中で検討を重ねて3種類のルーブリックを作成した。評価用紙は無記名とし、誰が

表1 プレゼンテーション用ループリック

プレゼンテーション	ループリック	対象グループ ()				学生氏名 ()	コメント
		4	3	2	1	0	
課題の理解		課題を正確に理解し、質問にも十分に対応できる	課題を理解し、質問にある程度対応できる	課題は理解しているが、質問にはあまり対応できていない。	課題の理解があまりで、質問にもあまり対応できていない	課題を理解しておらず、質問にも答えられていない	
内容		内容が論理的で、非常にわかりやすい	内容が論理的で、まあまあわかりやすい	内容がまあまあ論理的だが、わからないところもある	内容があまり論理的ではなく、わからないところもある	内容が論理的でなく、わからない	
構成		発表内容の構成が明確で、とても理解しやすい	発表内容の構成が明確で、まあまあ理解しやすい	発表内容の構成は明確だが、理解しづらい	発表内容の構成があまり明確ではなく、理解しづらい	発表内容の構成が不明確で理解できない	
発表態度 1.時間 2.声の大きさ 3.言葉 4.態度(伝えたいという熱意)		4つできている 1 2 3 4	3つできている 1 2 3 4	2つできている 1 2 3 4	1つできている 1 2 3 4	できていない	
スライド資料 1.文字の大きさ 2.デザイン 3.スライドの枚数 4.わかりやすさ		4つできている 1 2 3 4	3つできている 1 2 3 4	2つできている 1 2 3 4	1つできている 1 2 3 4	できていない	

表2 グループワーク用ループリック

グループワーク	ループリック	対象メンバー ()				氏名 ()	コメント
		4	3	2	1	0	
レディネス		グループワークに必要な知識を十分に備え、活用できる	グループワークに必要な知識が十分備わっているが、活用が十分とはいえない	グループワークに必要な知識がある程度備わっているが、活用は十分とはいえない	グループワークに必要な知識が不十分で活用もできない	グループワークに必要な知識がない	
課題の理解		課題について十分理解した上でやるべきことも把握している	課題について十分理解しているが、やるべきことはあまり把握できていない	課題について概ね理解しているが、やるべきことは把握していない	課題についてあまり理解しておらず、やるべきことも把握していない	課題について全く理解しておらず、やるべきことを何も把握していない	
メンバーシップ・協調性		自分の役割を十分に理解し、メンバーシップを発揮している	自分の役割を理解しメンバーシップを発揮している	自分の役割は概ね理解しているがメンバーシップを十分に発揮できていない	自分の役割とメンバーシップの発揮が十分とはいえない	自分の役割を理解していない	
参加態度		自分の意見を明確に述べ、他者の意見を十分に聞くことができる	自分の意見を述べるが、他者の意見を十分に聞くことはできない	自分の意見は明確に述べられないが、他者の意見は聞こうとする	自分の意見はないが、他者の意見にはうなずく程度に反応する	自分の意見はなく、他者の意見も聞こうとしない	

評価したかはわからないようにした。

1) プレゼンテーション

評価尺度は0～4の5段階に設定し、評価観点は「課題の理解」、「内容」、「構成」、「発表態度」、「スライド資料」の5項目とした。評価基準は、表1の通りである。

2) グループワーク

評価尺度は0～4の5段階に設定し、評価観点は「レディネス」、「課題の理解」、「メンバーシップ・協調性」、「参加態度」の4項目とした。評価基準は、表2の通りである。

3) 保健だより

評価尺度は0～4の5段階に設定し、評価観点は「チームの適切さ」、「ねらい」、「内容」、「オリジナリティ」、「読みやすさ」の5項目とした。評価基準は、表3の通りである。

以上の3種類のループリックを集計し、コメント等を入力してデータ化し、1人1人にフィードバックした。

2. 学生の反応について

1) 調査方法

今年度、養護教諭1種免許取得課程に在籍している学

表3 保健だより用ルーブリック

保健だより ルーブリック	保健だより No ()				氏名 ()	コメント(良かったところ, 気がついたこと, アドバイス)
	4	3	2	1	0	
テーマの適切さ 1.対象の発達段階 2.対象の特性 3.時期(季節) 4.関心をひく	4つできている 1 2 3 4	3つできている 1 2 3 4	2つできている 1 2 3 4	1つできている 1 2 3 4	適切ではない	
ねらい	ねらい(読み手に対する願い)が明確であり, 内容との一貫性がある	ねらい(読み手に対する願い)が明確だが, 内容との一貫性があまりない	ねらい(読み手に対する願い)があいまいである	ねらい(読み手に対する願い)があいまいである	ねらい(読み手に対する願い)が不明確である	
内容	子どもの様子をふまえた, 保健教育の一環として十分な内容である	子どもの様子をふまえていえるが, 保健教育の一環としてやや不十分な内容である	子どもの様子をふまえているが, 保健教育の一環として不十分な内容である	子どもの様子をふまえておらず, 保健教育の一環としてやや不十分な内容である	子どもの様子をふまえておらず, 保健教育の一貫として不十分な内容である	
オリジナリティ	作成者の個性が十分に発揮され, ほとんど自分の言葉で書かれている	作成者の個性があり, 不十分だが自分の言葉で書かれている	作成者の個性はややあるが, あまり自分の言葉で書かれていない	作成者の個性はややあるが, 自分の言葉で書かれていない	作成者の個性はなく, 自分の言葉で書かれていない	
読みやすさ 1.レイアウト 2.文字 3.文章 4.カット	4つできている 1 2 3 4	3つできている 1 2 3 4	2つできている 1 2 3 4	1つできている 1 2 3 4	読みやすくない	

部3年生20名に対して、「養護概説」の授業最終日に、本調査の趣旨と自由意思にもとづくこと、成績等評価への影響はないことを説明した上で無記名自記式のアンケートを行った。アンケートの提出をもって同意とした。

2) 調査内容

質問項目は、(1)ルーブリック評価をした感想、(2)評価されることによる学習への影響、(3)ピア評価によるお互いを評価することについて自由記載を求めた。

V. 結果

1. ルーブリックについて

それぞれの課題における評価の実際として、点数の平均とコメントの一例を斜字にて示す。

1) プレゼンテーション

(1) 点数化

5項目について20点満点で評価をおこなった。学生一人一人が各プレゼンテーションについて点数化したところ、「養護の概念」は平均18.7(±1.5), 「養護教諭の職務」は平均19.1(±0.9), 「保健室の機能と設備」は平均18.8(±1.7), 「現代における子供の発達・健康課題」は平均19.1(±1.3)であった。

(2) コメント例

それぞれが役割を持って、発表しており、プレゼンの資料の内容やスムーズさによりしっかりと準備してきたことが伝わりとても良かった。

2) グループワーク

(1) 点数化

4項目について16点満点で評価をおこなった。一人当たりの平均は15.5(±0.6)であった。

(2) コメント例

グループワーク時全体を引っ張りまとめていた。全体を統括し発表資料の作成リーダー的存在であった。多くの意見を出していた。

3) 保健だより

(1) 点数化

5項目について20点満点で評価をおこなった。一人当たりの平均は18.8(±0.5)であった。

(2) コメント例

レイアウトが上手。絵の大きさが適切で分かりやすい。タイトルと他の文字に差をつけると読みやすい。

2. 学生の反応

調査対象20名のうち10名から回答が得られた(回収率50%)。各項目について自由記載で書かれたことをカテゴリー化して整理した。カテゴリーは【 】で示し、項目によってはさらに〔 〕で分類した。具体的に書かれていた内容は斜字にて示した。

1) ルーブリックに関する感想

ルーブリックで評価したことについての感想を表4に示す。ネガティブな反応とポジティブな反応が得られ、ネガティブなものは【点数による評価は難しい】、【時間がかかる】であり、ポジティブなものは【点数化により

表4 ルーブリックについて

点数による評価は難しい	点数をつけるのは難しい
	ほとんど5になってしまった
	評価するのは難しかった
	自分の点数が気になる
時間がかかる	時間がかかった
	手書きよりも入力方式がよい
点数化により客観的に評価できる	点数化により客観的に評価できる
他者の良い点が見える	他者の良い点を改めてわかる
学習の要点や改善点が見える	評価をするのは大変だったが、参考になった。
	評価項目は注目すべき視点がわかるのでよかった
	項目ごとの評価から改善点が明確にわかる

客観的に評価できる】、【他者の良い点が見える】、【学習の要点や改善点が見える】と整理できた。

具体的には、「客観的に評価できる。」「評価項目があることで、学ぶべき視点が分かるので良かった。」と書かれていた。

2) 学習への影響

学習への影響について、表5の通りに〔今後の学習活動の発展〕、〔自己効力感の高まり〕がみられた。

(1) 今後の学習活動の発展

【他者の意見が見える】、【今後の学びに活かされる】、【様々な視点が得られる】、【学習意欲の向上につながる】というカテゴリーが抽出できた。

具体的には、「自分では気づくことのできなかつたことについて意見をもらうことで、別の視点からものごとを見るきっかけを与えてくれた。」と書かれていた。

(2) 自己効力感の高まり

【自分の良いところが見える】、【達成感や自信が得られる】というカテゴリーが抽出できた。

具体的には、「評価されるということでもいいものを作ることができるように意欲が湧いた。」と書かれていた。

3) ピア評価について

お互いを評価することについて、表6の通り、【気づきが多く、自分の視野が広がる】、【ありのままのコメントが伝え合えることで考えが深まる】、【学びにつながりお互いに高め合う】というカテゴリーが抽出された。

具体的には、「自分をどのように他者が評価してくれるかを知ることで次の学びにつながられると思う。」「自分で気づけないことを考えられる」と書かれていた。

VI. 考察

1. ルーブリックの意義と活用への課題

今年度、初めてルーブリックによる評価を試みたが、

表5 学習の効果について

今後の学習活動への効果	様々な視点が得られる	別の視点からの意見をもらい、気づくことがあった
		同じ学習をしている人から様々な視点を得られた
		いろいろな発見があった
	他者の意見が見える	意見を聞けることがうれしい
		客観的な評価を知れた
		本音ではない気がした
	改善点が見え、今後の学びに活かされる	良くも悪くも今後につなげられる
		今後活かされる
		今後の改善のヒントになった
	学習意欲の向上につながる	意見は参考になった
いいものをつくろうと意欲がわいた		
改善点の指摘により、よりよいものが作れると思えた		
モチベーションが高まった		
自己効力感の高まり	自分の良いところが見える	褒められてうれしかった
		自分の良いところが見えてよかった
	達成感や自信が得られる	達成感がうまれた
		意見を聞けることがうれしい
		全員からのフィードバックで自信につながり、改善できる

表6 ピア評価について

気づきが多く、自分の視野が広がる	自分の視野を広げられてよかった
	いろいろな意見から、今後につないだり気づけることが多い
	客観的にみることが出来る
ありのままのコメントが伝え合えることで考えが深まる	口で伝えるより率直にコメントが返せてよかった
	匿名だったことでありのままの意見が聞けてよかった
	言いづらいこともあるが、話し合うことで深めていける
学びにつながりお互いに高め合う	お互いに高めあえる
	自分では正しいか難しいので他者の評価は学びにつながる

学生による点数化した内容を概観すると、いずれの課題のいずれの評価観点も「4」をつけており、合計がほぼ満点に近い評価になった。このことは、学生同士でお互いを評価し合うことへの準備状況に課題があると考えられた。つまり、他者を評価することそのものに慣れていないこと、評価するにあたり、批判的思考を持つことが難しい様子がみられた。今回は無記名という方法をとったが、そもそもこれまで評価される立場であった学生が他者を評価することは抵抗があったものと考えられる。また、評価基準に関して、学生が評価しやすい文言で表現されていたのかを見直す必要もある。田辺⁹⁾は、学習者が評価される点にのみ傾注することによって、質の高い学習にならなくなる可能性があると述べ、ルーブリックを用いる際には、学習者との対話も取り入れて評価基

準の妥当性を検討する必要があると指摘している。今後は、アクティブラーニングの授業に取り組む前提として、他者を評価するということの意味や批判的思考についての学びなど学生のレディネスを整え、対話を重ねながら評価の内容を検討するべきであることが示唆された。

一方、このルーブリックを用いてピア評価したことに対する学生からの反応は良好であった。使用する難しさや時間など運用面での課題はあるが、ルーブリックによって学習の要点がわかることや点数化によって客観的に示されることなどポジティブな反応が多かった。またピア評価によって、お互いにコメントし合うことで、学習へのモチベーションを高めたり、自分の視野が広がったり、お互いを高め合うなど他者と学ぶことの重要性が認識され、学び合う姿勢が養われると考えられた。初めての試みにおいて、ある程度の学習効果を得られたと考えるが、継続していくことで、さらに学生自身の自覚や責任を認識し、主体的な学習態度が養われると期待できる。

2. 今後の授業のあり方と他の科目への汎用性

本学の「養護概説」は演習が多いことや少人数というメリットもあり、アクティブラーニング型の授業を行うには適していると考ええる。理論を学び、課題を与えて演習を行うなかで、ルーブリックを活用することは、学習者へ学びの方向性を与え、さらに主体的に学習に取り組むために有用である。しかし、そこには適切かつ確実なフィードバックが必要である。ルーブリックを用いて互いに評価する、という方法論だけが形骸化しないように、毎回の授業において、授業者の細やかな授業準備が必要であろう。今後は、他の科目においても、アクティブラーニング型授業がおこなえるよう、さまざまな手法を取り入れたり、課題の設定を工夫したりしながら学生の主体的な学習への参加を促進させたい。

Ⅶ. 結 論

本報告では、養護教諭養成課程における「養護概説」の授業改善の試みとして、アクティブラーニングの一環であるルーブリックを用いた評価の実際と、ルーブリックによる学生同士のピア評価の学習効果について検討した。ルーブリックの点数はほぼ満点をつける傾向があり、

まずは他者を評価することについて十分に学ぶ必要性が示唆された。ルーブリックを用いたピア評価に対する学生の反応は良好であり、学習効果がみられた。ルーブリックによるピア評価を導入することは、学習者にとって主体的に学習に取り組むきっかけになることが示された。

引用文献

- 1) 文部科学省. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)2012 [Internet]. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf [参照 2018-10-24]
- 2) 文部科学省. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)用語集 2012 [Internet]. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf [参照 2018-10-24]
- 3) 文部科学省. 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (諮問) 2014 [Internet]. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm [参照 2018-10-24]
- 4) 高木邦子. 現代の学生気質とその対応. 作業療法ジャーナル. 2011; 45: 320-5.
- 5) 下村義夫. 養護教諭養成カリキュラムにおける効果的な「養護概説」の開発: 平成13・14年度文部科学省教職課程における教育内容・方法の開発研究事業報告書. 岡山: 岡山大学養護教育研究会; 2003. p. 10.
- 6) 三森寧子, 竹鼻ゆかり, 西岡かおりほか. 養護教諭養成大学における「養護概説」開講の現状. 学校保健研究. 2017; 59(1): 40-7.
- 7) ダネル S, アントニア L (佐藤浩章監訳). 大学のためのルーブリック評価入門. 東京: 玉川大学出版部; 2016.
- 8) 田辺賢一. 学生の主体的な学びの促進に向けた授業方法の改善—栄養学実習のアクティブ・ラーニングにおけるルーブリック評価の導入—. 名古屋女子大学紀要. 2018; 64: 21-6.